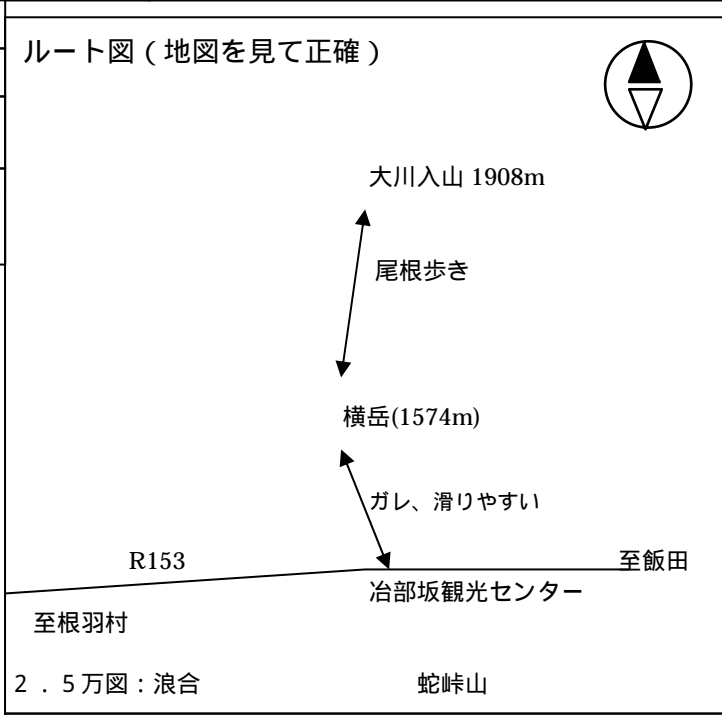


個人山行報告書			報告者	藤田健治	参加メンバー	CL 町田 修、SL 金子 清 松田宏也、鈴木 忠、 松田晶也、渡辺順二、 伊東研二、都 正弘、
			報告日	7月18日		
山 域	南信州	山行日	04年 6月 20日(日)			
山 名	大川入山(1908m)					

山行目的	全豊田山岳連盟創立 35 周年松田宏也親睦登山	コースタイム (天候: 天気図記号)
------	-------------------------	--------------------

配布先
集会:12
山行: 1
リ-ダ-
原紙: 集会担当者



天候: 曇り後雨

6/20

8:30 観光センター前発

9:40 横岳(1574m)

10:20 横岳発

11:40 大川入山(1908m)

12:10 下山開始

14:00 観光センター着

山崎 尚、甲斐はるか、
若林英知、中田 茂
岸野照男、岩堀弘昭、
中山安信、荒川俊史、
堂園 浩、四方正博、
木田光彦、中村 修、
米倉政明、藤田健治、
福井正信、亀山 誠、
青山 武、佐溝直彦、
渡辺勝利、宮田孝夫、
合沢 斎、清藤武志、
加藤君夫、金子 登、
山下清志、
(合計36名)

前夜泊の「トヨタ自動車水源クラブ」を出発前から雨が降り止まない。それでも冶部坂に着くころにはひと止みして登山開始の気持ちにさせてくれるからうれしい。出発早々、体に大きなハンディをもつ松田さんが気になりつつ滑りやすい急登となり、止んでいた雨が再び降り出した。休憩を取る中で今回の企画メンバーが協議して、松田さんと大半のメンバーが下ることとなった。

松田宏也さんを囲んで記念写真をとりおえ、デンソーとトヨタ自動車山岳部の一部が頂上を目指すことになり、雨の行進で見通しはきかないものの新緑の稜線歩きを続ける。

頂上では立ったままの休憩であるが、朝日新聞の松田昌也さんやトヨタの面々と冗談を交わした明るいひと時である。かる身のくだりで一気に観光センターまで飛ばすが下では回復した天気になっていた。

<p>【松田宏也氏紹介】</p> <p>1955年大分県佐伯市に生まれる 1978年日本ペイント入社</p> <p>1982年ミニヤコンカ峰(7556m)遭難 急死に一生をえて帰国</p> <p>1995年北鎌より槍ヶ岳 シシエパンマ峰 7430mファイナルC到立</p> <p>著書:「ミニヤコンカ奇跡の生還」 山と溪谷社 ほか</p>	<p>所見</p> <p>とにかく凄い人があるもんだと感心するばかりである。自分は気になり氏の2人後を歩いたが、絶妙のバランスで斜面をいともしない精神力と乱れない呼吸には日頃の精進ぶりを窺い知ることができた。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>フリースペース</p> <p>山の紹介・スケッチ・エピソード・</p> <p>早いもので連盟創立35周年の年をむかえた。発足当時はアフガニスタンの6000M級未踏峰ミラグラム峰に連盟隊で遠征すべく連盟活動が燃えていたのを思いだし体が熱くなる。</p> <p>松田さんには人間の生き様を見せていただいた、思い出に残る山行であった。</p>

確認 (リ-ダ-)
町
04/07/18
田
作成 (報告者)
藤
04/07/18
田